

遠州おおやねの家

[応募者名] 勤務先名: kameplan architects 一級建築士事務所
連絡先(勤務先) TEL 050-7578-9022 FAX 050-7578-9022

勤務先住所: 東京都江東区潮見 2-6-1

[設計者] 団体名・氏名・住所・連絡先等 kameplan architects 一級建築士事務所 大出達弘 東京都江東区潮見 2-6-1 050-7578-9022
[施工者] 団体名・氏名・住所・連絡先等 有限会社 入野渥美建築 渥美嘉彦 静岡県浜松市西区入野町 8966-4 053-448-0958

【設計趣旨と特徴】

薪ストーブディーラーを営む施主のライフスタイルを体现するために、薪ストーブを主軸として計画した住まい。熱を上手く集めて回すために、各部屋が面する様に吹き抜けを配し、建物頂部の「チャンバー」に集まつた空気を床下に送り、蓄熱させるために「サーキュレーションシステム」を考案。夏期には夜間の涼しい外気を床下に取り入れている。また、地域に根ざす家として、天竜杉を構造材、床仕上げ、外壁全面に採用。壁も砂漆喰で切りとして、柔らかな空間に仕上がっていている。

【住宅概要】

竣工年: 2013 年

敷地面積: 280.70m²(84.91坪)

建築面積・建蔽率: 95.03m²(28.75坪)/33.85%

延床面積・容積率: 133.32m²(40.33坪)/47.49%

構造: 木造軸組在来工法

家族構成: 夫婦 2 人、子供 2 人

次世代省エネ基準地域区分: IVb

【住まい手のコメント】

どうしたら薪ストーブを最大限に活用できるか、設計者と考えだしたのが 5、6 年前。ようやく室内の温熱環境を薪ストーブでまかなえる仕組みができあがりました。そればかりでなく、生活に薪ストーブが溶け込める様に配置場所も考え、ともに暮らせる家となりました。

【自立循環型住宅の概要】



リビングには仲間が集まるよう
暖炉を設えました



通り土間を挟んでリビングとダイニングがつながる。
屋外的にも使える土間は、現代でも有効です。



南側からの採光や、家全体の空気をうまく回すために、
家族が伸びやかに過ごせるように、
大きな吹抜けを設えました。



外壁は天竜杉の継張り。
メンテナンスの時にも、手に入りやすい材料で。



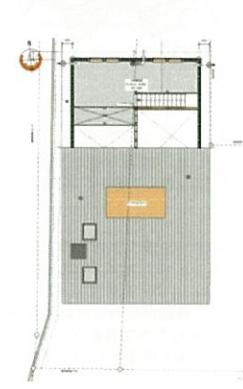
この家と対になる事務所を眺めて。
この間をつなぐ外構は、
時間をかけてゆっくり創り上げて行きます



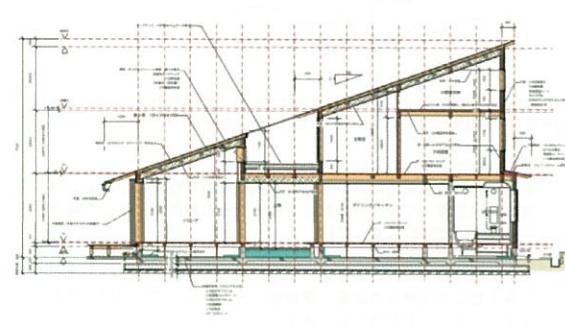
1F 平面図



2F 平面図



小屋裏平面図



矩計図

●設計要件:

自然エネルギー利用の可能性: 容易

ライフスタイルの指向: 高い

目標像: 自然生活指向

●採用した要素技術

自然風の利用、昼光利用、太陽熱給湯、断熱外皮計画、日射遮蔽、換気設備、給湯設備、照明設備

■自然エネルギー活用技術

●自然風の利用

西からの卓越風を取り込むために、各居室の開口部を東西に配置。北面の開口部はウインドキャッチのために縦滑り窓を採用。

●星光利用

全居室を 2 面採光。非居室も全て採光あり。

●太陽熱給湯

ソーラーシステムを採用。メーカー標準固定方法だと長期的な漏水の心配があるため、メーカー開発と連携して、屋根材固定方式の設置方法を開発。

■建物外皮の熱遮断技術

●断熱外皮計画

日射量の多い温暖地のため、夏期の屋根からの熱侵入を防ぐため、熱抵抗値 5.54 m² · K/W のセルロースファイバ吹込みとし、開口部は東西面を遮熱複層。南北面を複層として日射遮蔽、取得のバランスを計っている。

●日射遮蔽手法

全ての開口部に奥行 300 mm の小庇を設置。南面の軒の出も 1200 mm として日射遮蔽、取得のバランスを計っている。

■省エネルギー設備技術

●暖冷房設備計画

施主のボリシーとして暖房設備はせず、暖房は薪ストーブにて行う。年間を通じてサーキュレーションシステムにて温度差が生まれない様計画している。

●換気設備計画

空気漏の高い建物頂部（小屋裏）に吹き抜けを通過して集め、高効率機器にて全館の排気を取っている。

●給湯設備計画

ソーラーシステムと連携した供給給湯等制御部を接続し、自然なエネルギー節減を計っている。

●照明設備計画

ベース照明に電球型蛍光灯ダウンライト、プラケットを配し、調光スイッチも採用している。

●高効率家電機器の導入

冷蔵庫クラス 3、テレビ設置無し、暖房便座クラス 3、洗濯機クラス 3 を採用。